

太平洋イカ類漁場調査 一抄録一

(開運丸によるアカイカ漁場調査、東奥丸によるイカ類漁場調査)

大川 光則・菊谷 尚久・涌坪 敏明・白取 尚実

発 表 誌 名

イカ釣漁場開発調査資料X V (平成2年4月) 及び平成元年度外洋性イカ (スルメイカ・アカイカ) に関する生物測定・標識放流・海洋観測基礎資料集。

抄 録

平成元年6月～10月に試験船開運丸 (調査海域: $40^{\circ} 00' N \sim 43^{\circ} 04' N$, $142^{\circ} 02' \sim 155^{\circ} 13' E$)、及び東奥丸 (調査海域: $38^{\circ} 42' N \sim 41^{\circ} 27' N$, $141^{\circ} 30' E \sim 146^{\circ} 28' E$) によりスルメイカ、アカイカ等の漁場環境、イカ類分布状況等について調査を実施した。

1. 漁 場 環 境

7月～9月にかけて、それぞれ $145^{\circ} E$ 、 $150^{\circ} E$ 、 $155^{\circ} E$ 付近を中心に黒潮系暖水の北上が見られ、イカ類、特にアカイカの密度の濃い分布域は、この北上暖水の先端付近に見られた。

2. イカ類の分布

(1) スルメイカ

両試験船の総漁獲尾数は、424尾と前年を若干上回ったが、高密度漁場形成海域は見られなかった。

(2) アカイカ

延べ51回の操業で66,944尾を釣獲した。これは、前年を大きく上回り、釣獲尾数では約2倍 (1操業当たりでは2.2倍) となった。

漁場は、7月には、 $144^{\circ} \sim 145^{\circ} E$ 周辺海域で、8月～9月にかけて $151^{\circ} \sim 155^{\circ} E$ 周辺海域で分布密度の高い漁場が形成された。

3. 水揚量 (釣による)

(1) スルメイカ

氷蔵船水揚げ量は、八戸港で1,986トン (対前年比115%増)、大畑港で3,048トン (対前年比262%増) の水揚げとなっている。これは、日本海からの資源の添加により漁場形成 (初漁日が10日早かった) がおこなわれたこと及び出漁隻数が増加したことによるものと考えられる。

(2) アカイカ

氷蔵船による八戸港への水揚げ量は36トン (対前年比95%減)、凍結船は546トン (対前年比30%減) となっており、相変わらず低調な状況となっている。